

会議等名	平成 28 年度 第 1 回海老名市子ども・子育て会議
日 時	平成 28 年 4 月 28 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 50
場 所	海老名市役所 3 階 政策審議室
出席者	<p>委 員 : 鍛冶 邦彦 委員長、新倉 美和子 副委員長、久保 由美 委員、鍵渡 香代子 委員、小島 良之 委員、櫻井 慶一郎 委員、山田 由美子 委員、木村 伸之 委員、吉村 まい 委員、増田 芳夫 委員、亀澤 ますみ 委員、田島 紀子 委員、渡部 理子 委員、村田 愛 委員 (欠席 ; 熊澤 紀千代 委員)</p> <p>事務局 : 保健福祉部長 橋本 祐二、保健福祉部次長 (福祉担当) 兼福祉事務所長 渋谷 明美、参事兼保育・幼稚園担当課長 萩原 小百合、子育て支援課長 告原 幸治、子育て支援係長 奥田 ともみ、子育て支援係主査 尾内 速斗、主任主事 千田 裕美子、保育・幼稚園係長 安齊 浩史、保育幼稚園係主事 片山 考人、学び支援課長 小林 誠、指導係主幹兼係長 西海 幸弘</p> <p>傍聴者 : 1 名</p>
1 開 会	
2 保健福祉部長あいさつ	
3 事務局紹介	
4 議 題	
※ 傍聴の申し出が 1 名からあったため、傍聴の可否について議題の前に議長から委員に諮り、了承された。	
<b>【審議事項】</b>	
(1) 子ども・子育て支援事業計画の平成 27 年度実績報告について	
① 審議内容	
平成 27 年 3 月に策定した「海老名市子ども・子育て支援事業計画」では、年度ごとに設定した目標事業量の達成状況について子ども・子育て会議にて点検・評価し、必要に応じ見直しを行うこととしている。今回は 27 年度の個別事業の実績報告を取りまとめたため、その内容について審議事項とした。各事業の説明、実施状況、次年度に向けた改善点等を別紙資料に基づき事務局から説明した。	

## ② 質疑応答

- 「紙おむつ支給事業」について1家族あたりの支給量の詳細と想定する経済負担額はどの程度のものか。(委員)
  - 6か月分相当ということで市販品6袋。もちろんこれですべて賄える量ではないが、多少の保護者負担の軽減のほか、海老名で生まれた子どもへのお祝いという両方の目的でこの事業を捉えている。金額については定価で換算すると6袋で大体1万円相当である。(事務局)
- 車がない等の理由で持ち運びができない家庭にはどうするのか。また紙おむつの銘柄指定はできるのか。(委員)
  - 申し出があれば宅配を行う。銘柄については希望者には3社から選択することも可能。(事務局)
- 「幼稚園における在園時を対象とした一時預かり(預かり保育)」の実績状況に園児1人当たり400円前後を一時預かり幼稚園型実施園に補助する。とあるが、これは園に対する補助か。もしそうならば園ではなく保護者に補助したほうがいいのではないか。(委員)
  - 園に対し補助を行っている。(事務局)
- 『子ども相談』窓口の充実事業の実施業況にある「子どものしつけ講座」はとても良い事業だが、グループ講習の定員が8名程度しかなく年2、3回の開催では少なく感じる。また、概略版(2時間)については、妊娠中の母親が受講してもいいのではと感じた。(委員)
  - しつけの仕方、子育ての関わり方という参加者のそれぞれのケースに応じた講座内容なので、人数が多すぎると講師の目が行き届かず、結果として受講者が講座内容を理解することが難しくなってしまうことから現在の定員数となっている。講座数の増加については今後も検討しながら進めていくが、通常講座(7日間で1セット)の内容を凝縮し、定員数を増やした概略版(2時間コース)も用意している。妊婦さんの参加も含めて今後とも検討していきたい。(事務局)
- 基本施策「児童虐待防止対策の充実」全般について、すべて大人目線の対策に感じてしまう。例えば「子どもの駆け込み寺」のように子どもからアクションできる場、親にも学校の友達にも知られず、気軽に打ち明けられて守ってくれる場がない。(委員)
  - 実際のお子さんが発信する場合は、幼稚園・学校の先生が一番身近な存在かと思うが、それが話しにくいとなると、電話相談の案内になってしまう。なお子どもを守るネットワークについては、通告があった場合、子ども目線で子どもの安全を第一に考えるという目的で関係部署が連携する取組みで、通告から48時間以内に子どもの安全を確認するという国の方針に準じ行動し

ている。また、周囲に虐待の疑いがあれば通告することは国民の義務とされているため、このことのPRもしていきたい。「子どもの駆け込み寺」についてはご意見として承りたい。(事務局)

- 学童と保育所に関わっているが、卒園した子どもが相談に来たケースはあった。子どもが隠れられて発言できる場所というのは意外と少ない。学校も含めて広い窓口を検討することは良いのではないかと感じる。相談のある件数は少ないが、相談に来た時には重篤な内容となっていることが多い。(委員)
- 学校では、虐待のPRポスターの掲載を行うほか、相談を受ける体勢づくりや、低学年など相談ができない児童も想定し、担任が体育の着替え、給食の時間の食事の仕方など児童の様子に注意を払うようにしている。また学校だけでなく地域の見守り体制も以前と比べ確立できてきた。その他、子育て支援課・児童相談所とも連携強化に努めており、まだ十分ではない所もあるが、地域を含め学校全体で気づいてあげられる体制を充実させていきたい。(副委員長)
- 学童では親以上に子どもに接する機会も多いため、親からの虐待があった場合の対応について現在勉強している。児童相談所に相談すべきか、守秘義務を守るべきか難しい部分もある。時には学校へ行き先生と相談するケースもある。子どもが身を寄せる場があることは心強いのではないか。(委員)
- 大人からの見守りはもちろん、子どもから訴えられる場所がもっとあればいいということなので、行政だけの問題ではないかとも思うが、今後の施策に反映できるものがあればいいかなと思う。(委員長)

### ③審議結果

子ども・子育て支援事業計画の平成27年度実績報告の内容について了承を得られた。

## (2) 子ども・子育て支援事業計画の改定について

### ① 審議内容

国の手引きに基づき定めた「子ども・子育て支援事業計画」の保育施設の目標事業量が実績値に大きな差異が生じたため、実態に併せた「えびな待機児童解消プラン」を平成27年11月に策定した。今回は「子ども・子育て支援事業計画」の第4章第3節「幼児の教育・保育の課題解消に向けた取組の推進」について、「えびな待機児童解消プラン」に併せた数値に改定したく審議事項とした。改定内容の詳細については別紙資料に基づき事務局から説明した。

### ② 質疑応答

- ・ 厳しい経済状況から今後ますます共働き世帯は増加すると言われている。見込みどおりの目標事業量で保育施設は足りるのか。(委員)  
→ 完全に予測数値を捉えることは難しい。過大でも過小でもいけないと認識している。計画はニーズ調査を基に数値を算出したが、実際の数値との乖離が出たので今回議題として挙げている。保育は社会情勢経済情勢に大きく影響を受けるものなので、実数値は毎年把握し必要に応じ修正を行っていくべきであると考えている。(事務局)

### ③審議結果

子ども・子育て支援事業計画の改定について別紙資料のとおり実施していくことで了承を得られた。

## 【報告事項】

### (3) 平成28年度における特定教育・保育施設の定員設定について

平成28年4月1日から定員内訳の変更が生じたため、報告事項として別紙資料に基づき事務局から説明した。

### (4) 「(仮) 子育て応援宣言」の策定状況について

#### ① 報告内容

平成27年度第2回会議で報告したその後の進捗状況について、子育て世帯に向けたアンケート実施結果の報告、宣言素案、具体的取組と今後のスケジュールについて別紙資料に基づき事務局から説明した。

#### ② 質疑応答

- ・ 「子育て親子応援宣言」と「親子」の文字を入れたことは良い。具体的な取組でピックアップした事業について、どういった観点で取上げたものか。(委員長)  
→ 宣言の素案は3本柱で構成されているが、それぞれにふさわしそうな事業を子ども・子育て支援事業計画や市の総合計画に基づいた施策から選択した。ただしこれはあくまでも現時点における内容であり、具体的な取組についてはこれから市内部で詰めていく。次回報告の際はもう少しはっきりした内容を示せると思う。(事務局)
- ・ この宣言が目指す目標はどこか。他市住民からうらやましがられるような内容のレベルか、他市から視察を求められるようなレベルか、メディアに取上げられることが目的なのか。(委員)  
→ 安倍内閣において「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されたことに伴い、地方も少子化対策や雇用対策等を明記した総合戦略を策定し地域が自立して今後も発展できるように取組んでいくことが示唆されている。海

老名市でも「かがやき持続総合戦略」を策定し将来の海老名がより魅力的なまちになるための取組をまとめたが、そこに人口推計も掲載した。海老名はまだ人口が伸びており、今後も人口増への取組を進めていくが、やがて来る人口減少の中でもその下がり幅を極力狭めることが求められる。そのためには海老名の魅力を充実させることはもちろんだが、子育て世帯がいないとまちの活気は生まれてこないため、子育て世帯を増やしていくことが重要であり市をあげた取組みであると考え。市民が安心して子育てでき、住んで良かったと思えるまちづくりを進めることが新たな子育て世帯の定住を促し、結果として子供から高齢者まで全体で支えあうまちの形成につながると考えるため、この宣言は市内だけでなく外部へも積極的に発信していきたい。今年度の機構改革において「シティプロモーション課」を立ち上げ、市の魅力発信を積極的に行っていく方針だが、この取組の中に「子育て応援宣言」も加えられたらと考えている。(事務局)

- 人口増という他市との奪い合いになると思うが、他市の取組について研究しているのか。また、「子育て応援宣言」の「応援」の部分は違和感を感じた。「支援」や「サポート」とした方がいいのでは。また、現状の具体的な取組内容は漠然としている。もっとイメージしやすい具体的な方がいいと思う。(委員)
  - 保育園の立場から発言すると、保育園に入所し保護者が安定すると次の子を出産する確率が増えるように感じているが、同様に考えると本来の応援の姿というのは市として住みやすい環境整備を突き詰めていくことで、その結果、定住が進み根本的な海老名の発展に繋がるのであって、他市との奪い合いが生じると考えるのは結果論である。駅周辺の整備が進んでいる交通整備等、総合的に捉えて明記していった方が良いと思う。(委員)
- 他市の勉強については、まだ不十分な面もあり今後とも情報収集に努めていくが、いいと思ったものは積極的に取り入れていきたいと考えている。また、宣言の「応援」という表記については、現時点でイメージしやすいものとして打ち出したもので確定ではない。宣言名は外部に打ち出していくものなのでとても重要であると考えており、次回の時にでも委員の皆様にもご意見をいただきながら進めたいと思う。次に具体的な事業についてのご指摘は、市全体としての魅力を考えると交通結節点であり鉄道・道路といった内容になるがこちらはより総合的な取組として全市的に進めていくべきであり、この宣言については海老名の人たちにとってより子育てしやすいというのが一番の目標であり、付加価値として他市の住民にも共感してほしいというところを目指していきたい。また宣言には新たな取組がないと意味がないので、理解されやすく新しい事業を加えていきたい。(事務局)

- せっかく考えて策定する宣言なので、より実効性のあるものを作ってもらいたい。(委員長)

(4) その他

次回開催は8月と書いてあるが、可能であれば7月。子育て応援宣言の策定がメインテーマとなる。タイトルは悩むと事務局は考えているのでいいアイデアが浮かんだら連絡いただきたい。次回開催の案内も決まり次第お送りする。(事務局)

4 閉 会

以 上